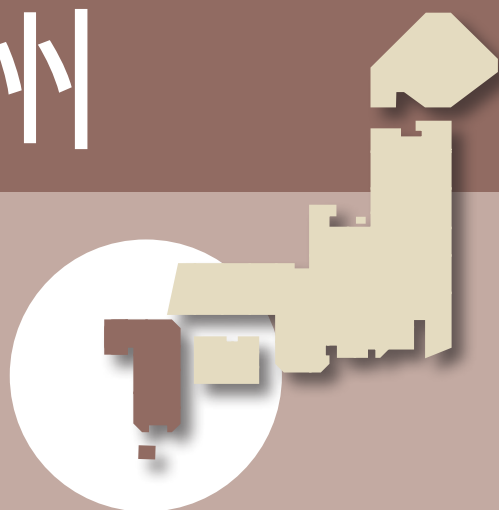


九州



長崎県

宮崎 徳康さん



ゲートボール

60

熊本県

橋本和香美さん



弓道

61

宮崎県

内田 雅 實さん



ソフトバレーボール

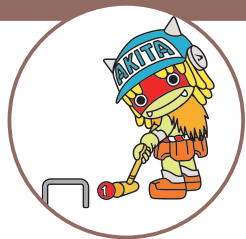
62

沖米田 孝さん



軟式野球

63



ゲートボール 「西海大島X」チーム

みやざきのりやす

宮崎 徳康 さん 62歳 ● 参加歴：1回目

秋田の空 ― 天気の移り変わりとチームの成績

9月8日——長崎空港目指し「さあ！出発」。天気は快晴でチームの門出を祝うかのよう。羽田空港で飛行機を乗り継ぎ、大館能代空港に到着した。バスに乗り込みホテルに到着した時には辺りは薄暗くなっていた。明日の打ち合わせと団結の意味で、一部屋に集合し、移動のお疲れさん会を兼ねた作戦会議を行う。午後9時頃？地震（震度5.3）。全員一緒だったので「揺れたネ！」と結構落ち着いた状況であった。

9月9日——開会式会場へ向かう。天気は快晴。入場行進が始まるのを待つ。総勢1万人以上だろう、壮大ではあるだろうが、年配者や膝の調子が悪いメンバーもいるため、暑いのを我慢し待つ間の体調が心配であった。開会式は秋田の郷土芸能他、趣向を凝らしたもののばかりで、目を奪われているうちに時間が過ぎていた。

9月10日——『いざ！決戦』秋田は今日も快晴。1試合目「とにかく先手必勝」と若手のメンバーで臨んだ。立ち上がりから優勢に進み快勝。2試合目、控えに廻ったベテランに入れ替えた。順当に試合を進め快勝した。チーム最年長、81歳の選手も120%の出来栄えて「いい冥途の土産ができた」と顔をくしゃくしゃにしていたのがチームの士気をさらに高めた。

9月11日——今日は晴れてはいるものの雲が広がりつつあった。3試合目は、主将と主力選手が控えにまわった。この試合に負けても、決勝トーナメントに進出できることが確実だったため、以降の選手の負

担を軽減する作戦であった。ところが想定以上の結果が生まれた。競技時間を調整する余裕をもって、なんと25-5。この大会2度目のパーフェクトを達成。予選3試合の結果は3戦全勝、トーナメント進出。チーム成績はトップであった。

決勝トーナメント。開始早々からミスがでた。これまでの3試合には全くなかったミスである。それでも徐々に挽回し、一発逆転のチャンスもあったのだが、生かせず8-10で惜敗した。しかし、全員全力を尽くした。後悔はないが、反省すべき点は多々ある。これを機に課題をすべて解消し、次の和歌山で「倍返し」、チームワークをさらに強化し精進したい。

9月12日——私の悔し涙を隠すには十分すぎるほどの雨。天気の移り変わりが、この大会におけるチームの成績に連動しているように思えてならなかった。最後に、私の持論である「自分に負けるな！」という言葉をこれからのチームのメンバーに贈ります。



チームの全員で。（左から3人目）



弓道

はしもと わ か み

橋本和香美さん 61歳 ● 参加歴：1回目

年の差フレンズ ― 35歳年上のチームメイト

「えっ、大丈夫!?!」

96歳の甲斐さんが参加すると聞き、私たちは顔を見合わせた。熊本から秋田まで、大変な長旅である。果たして無事に行き着くのだろうか……。

そんな心配を胸に、私たちは甲斐さんの荷物を持ち、手を引き、秋田へ出発した。

私と甲斐さんが仲良くなったのは、2日目の朝のことだった。朝食会場から部屋への帰り方がわからないという甲斐さんに、私は手をさしだした。すると、甲斐さんは、私の手をギュッと握った。私は、思わず「お手てつないで」と歌いだした。すると甲斐さんも「野道を行けば」と唱和してくれた。それから二人は大きな声で歌い、手を振りながら部屋までもどった。何とも楽しく、心弾む時間であった。

弓道競技の開会式では、甲斐さんが最高齢者賞、清永さん89歳が高齢者賞、大塚さんが市特別賞と、3人が表彰され、トロフィー2本、新米70kgをゲット。競技では、予選敗退だったものの、賞品の量では、断然トップだったことだろう。

長い待ち時間、いろいろな話をしながら親睦を深めた。甲斐さんの話を聞いて、私たちは思い違いをしていたことに気づかされた。甲斐さんは、毎朝1時間ウォーキングをした後、自宅の弓道場で弓を引き、ラジオ体操をして朝食をとるという。私よりずっと健康的で健脚なのだ。しかし、「ねんりんピックは、昼寝ができんのが、きつかなあ」と、辛そうに顔をしかめるのを、メンバーは見逃さなかった。次の日、控え席

の横にマットが敷かれ、甲斐さんのお昼寝コーナーが作られていた。

甲斐さんが健脚だとわかって、私たちは甲斐さんと手をつなぎ、腕を組んで歩いた。ただし、大股で元気よく。

会場でいただいた和タオルに「年の差フレンズ」という文字とイラストが描かれていた。私と甲斐さんは、年の差35歳。清永さんとは27歳。まさに年の差フレンズだ。お二人を見てみると、年を重ねるのもいいもんだと思えてくる。小さなことにこだわらず、失敗も笑って楽しむ。若い者の手助けは喜んで受け取り、知恵と経験を伝える。さすが「ねんりんピック」に参加する人たちである。

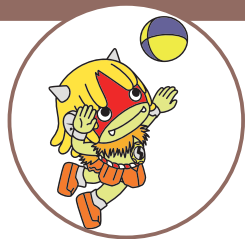
先日、試合で甲斐さんとお会いした。甲斐さんは満面の笑みを浮かべ言った。「来年のねんりんピックにも参加するけん、橋本さんも、一緒に和歌山にいくバイ!」

私は答えた。

「はい! もちろんです。私たち年の差フレンズですから」



結果は予選敗退と残念だったが、チームでたくさんの賞品を獲得。
(右から2人目)



ソフトバレーボール 「ミックス」チーム

うちだ まさみ

内田 雅 實 さん 68 歳 ● 参加歴：2 回目

2 回目の参加で初入賞

山口県で最後の単身赴任が終わり、帰県しようとした時に元職場のバレー部の後輩から「ソフトバレーボールを一緒にしましょう」と、声を掛けられました。昔は若く引き締まっていた筋肉も、この歳になると日本一の宮崎牛のような霜降り状態に変わっており、「どげんかせんといかん」と思った私は、10年以上のブランクがあるにもかかわらず仲間に入れてもらいました。

練習するに当たり、目標として、①市・郡内での上位入賞、②九州ブロック大会への出場、③ねんりんピックへの出場を掲げました。入部2年目にして九州ブロック大会（佐世保）、4年目にも九州ブロック大会（那覇）、5年目で最高目標である「ねんりんピックおいでませ！山口2015」に参加することができました。ただし、やまぐち大会での成績は、3位グループの3位と全く実力を出せず不満の結果でした。我々のチームは身長が低いので、相手チームのブロックを避けるために速い攻撃パターンの練習をして、再度ねんりんピック県予選に臨みました。いつの試合も楽しく勝ったことはありませんが、

「ねんりんピック秋田2017」の出場を決めることができました。

あきた大会での成績は、名古屋市チームを破り、地元秋田県チームに敗れて、2位グループで決勝リーグに進みました。決勝リーグでは、初戦で埼玉県を破り、2試合目は見るからに強そうな広島市に苦戦の末フルセットで勝利。2位グループの1位として優秀賞をいただくことができました。和気あいあいとソフトバレーボールを楽しむミックスメンバーの良いところが出た強さと思っています。2度のねんりんピックに参加した経験から、どのチームとも互角の戦いです。些細なミスで上位チームに入れられないということです。これを肝に銘じて体力、気力の続く限りソフトバレーボールを続け、練習に励みたいと思います。

大会参加にあたり、秋田県の方々、ソフトバレーボール競技役員の方々、宮崎県社会福祉協議会の皆さま、特に2カ所の競技会場を掛け持ちで、お世話、応援してくれた担当の方、大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。



いつも和気あいあいとプレイを楽しむチームメンバー。(左から3人目)



2位グループの1位、優秀賞を受賞。「やったー！」(受賞者)



軟式野球 「延岡還暦野球クラブ」チーム

おきよねだ たかし

沖米田 孝さん 70歳 ●参加歴：1回目

秋田県、八峰町の皆様に感謝！

日一日と大会が近づく中、選手のメンバー調整に不安を抱きながら当日を迎えることになりました。

宮崎空港での結団・出発式を終え、秋田へ向け出発。東京での乗り継ぎ等に時間を要し、秋田駅には暗くなった18時頃着きました。一日がかりの移動に、改めて日本列島の広さを感じさせられました。

ホテルに到着すると、早速宮崎県選手団の交流会があり、他種目の選手たちと和やかに交流。盛会のうちに終了し、部屋でメンバーと酒を飲みながら和んでいたところ、突然震度5弱の地震があって、先行きを不安に感じました。

総合開会式当日は快晴。会場に到着してまず驚いたのが1万4000人という参加選手の多さです。そして、誘導やきめ細やかな案内、それに秋田県の市町村の各ブースにおける紹介やサービスにも主催者側の温かい気遣いが感じられました。総合開会式も素晴らしかったですが、アトラクションにおける秋田県の四季のイベント等、私たちにとっては全く気候や風土も違う

未知の世界で、感動しながら拝見させていただきました。

試合は能代市を主会場に八峰町と藤里町の2会場で行われ、成績は1勝1敗でした。我がチームは全国でも歴史が古く、全国優勝の実績もあり、今回も当然ながら優勝を目指しておりました。しかし、絶対的エースである松田選手が仕事の都合で帰ることになり、本戦で投げられず、結果的に大敗をしてしまいました。それが心残りです。

試合会場のあった八峰町では、町長をはじめ、町を挙げての歓迎レセプションがあり、温かいおもてなしや試合会場での接待等、歓待を受け感激しました。日程の都合で観光の時間こそとれませんでした。毎年、能代市において開催される夏の終わりのおなごり祭りに出会え、秋田の竿燈まつりや青森のねぶた、それに岩手の盛岡さんさ踊り等、東北地方の夏祭りが一堂に見られたことが本当に幸運でした。また、秋田県民の温かい人情と、宮崎県の風土とは全く違う車窓からの風景に触れ、参加して良かったと強く感じました。

軟式野球は、23年ぶりの開催でしたが、また是非とも出場したいと思っています。宮崎県の役員や関係者の皆さまには大変お世話になりました。



目標の優勝は逃したが、笑顔で集合写真。(前列左から2人目)



バッターボックスにて、「ホームラン!？」と思った瞬間。